

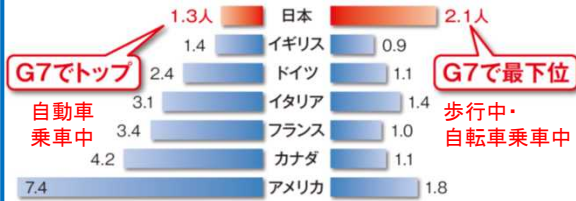
# 生産性革命プロジェクト: 急所を事前に特定する科学的な道路交通安全対策 (参考1)

## ビッグデータにより生活道路の安全を確保 ~ 対症療法型から科学的防止型に ~

### 【交通事故の状況】

■ 自動車乗車中はG7で最も安全  
歩行者・自転車乗車中はG7で最下位

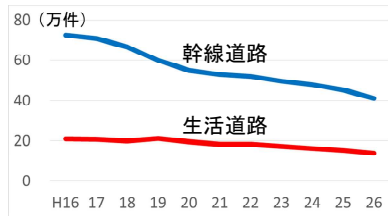
【人口10万人あたり交通事故死者数の比較】



出典) OECD/ITF(2014) Road Safety Annual Report 2014

■ 生活道路の事故件数は、  
幹線道路と比較し減少率が小さい

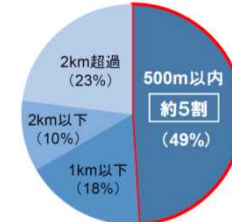
【道路種別の交通事故件数の推移】



出典) 交通事故統計年報

■ 約半数が  
自宅から500m以内で発生

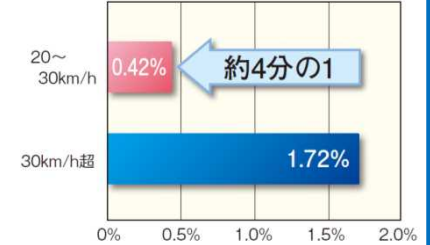
【自宅からの距離別死者数 (歩行者・自転車)】



出典) 交通事故データ(ITARDA:平成26年データ) 調査不能を除く

■ 衝突速度が30km/hを超えると  
致死率が急激に上昇

【生活道路の速度別の致死率】

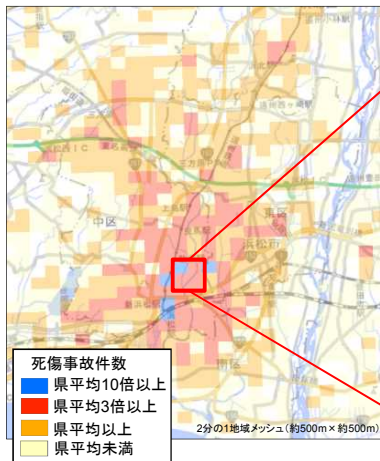


出典) 交通事故データ(ITARDA:平成25年データ)

平成28年度から全国約**100**エリアを皮切りに対策を実施

### < 事故データによる抽出 >

■ 事故データを活用し、  
対策候補エリアを抽出



### < ビッグデータを活用した生活道路対策 >

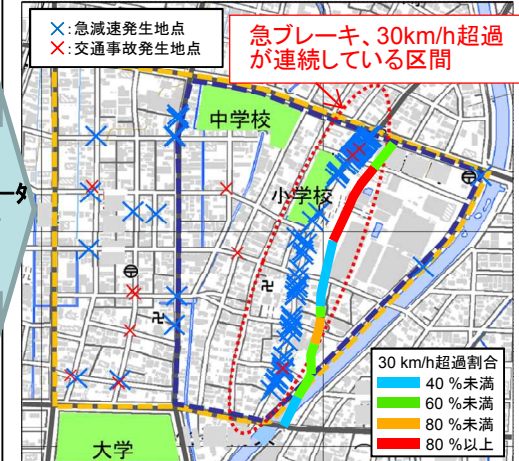
【これまで】

■ 事故発生箇所に対する  
**対症療法型**対策



【今後】

■ 速度超過、急ブレーキ多発、抜け道等の  
**急所を事前に特定**



効果的な  
速度低減策を実施

【対策例】



ハンプ



狭さく

**技術基準制定**